

沖繩週間・2017

6月23日から26日にかけて沖繩週間・沖繩の旅が行われました。初めて参加させていただきましたこの旅で私が一番印象に残っているプログラムはフィールドトリップです。嘉数高台から普天間基地を見たとき、想像以上に広くて驚きました。しかし、基地から視線をそらすとそこには宜野湾市民の住宅が密集していて、だだっ広い基地とのギャップに衝撃を受けました。八重山公園から「道の駅かでな」までの道のりは、強い日差しと暑さで大変でした。しかし、嘉手納基地の周りを実際に歩くことで、基地の大きさを体と心に訴えかけられているようで、とても意義深い体験でした。



平和公園でのフィールド・トリップ

北谷諸魂教会で行われた「慰霊の日」礼拝の後、「なぜこの教会で『慰霊の日』礼拝が行われているのだろうか」と考えながらホールから見える海を眺めていました。気になつて沖繩教区の方に尋ねてみると、「北谷諸魂教会から見ると、この海からアメリカ軍が上陸してきたから毎年この教会で礼拝しているんだよ」と教えていただきました。これを聞いて私は改めてこの教会で沖繩戦で亡くなられた全ての人々のために祈りを捧げることができてよかつたなと思いました。



人々が避難したガマ

この4日間で一気に沢山の情報が入ってきたので心にずしつと大きなものが乗つかったような感覚になりました。が、無知な私にとって、全てが貴重な時間でした。沖繩での「日常」は私にとって「非日常」です。軍用機が我が家の真上を、学校のすぐ近くを飛んでいることなんてありません。だから4日間で見聞き

した沖繩の現実を簡単には受け止められませんでした。時間はかかるかもしれませんが、米軍基地に対して自分なりの考えを見つけ、また沖繩に足を運びたいと思います。最後に、私は18歳という年齢でこのプログラムに参加し、沖繩の「今」を知ることができて本当によかつたと思います。もつと多くの同世代の人と沖繩で同じ時間を共有することができると、お互いにより良い経験になると思うので、今後、沖繩週間／沖繩の旅に沢山の青年が参加することを願っています。

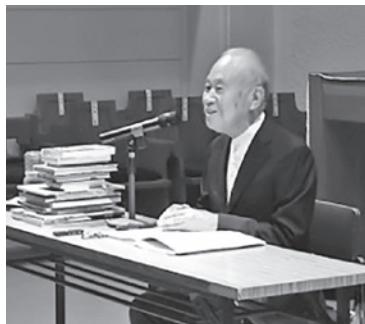
(神戸聖三カエル教会信徒
テレサ 笹 緋奈)

広島平和礼拝 2017

8月5日から6日にかけて、広島平和礼拝2017が広島復活教会にて行われました。今年も全国から、約200人の方々がご参加くださいました。

5日は朝9時から、平和公園や広島城近くにある大本営跡の碑巡りから始まりました。その日の午後から広島復活教会で、益田遥さんを講師

に迎えて被爆証言が行われました。そこでは、広島で最初の助産師である益田小蠅さん(遥さんのお母様)の被爆体験や、遥さんが被爆証言を始めたきっかけについてのお話がありました。また現在行なっている、原爆の恐ろしさや愚かさを音楽で伝える「レクイエム碑」についてのお話もありました。私は益田遥さんのお話をお聞きして、戦争の恐ろしさや悲しさ、そして平和の尊さを伝える方法は様々なのだと思いました。



講演をしてくださった益田遥氏

被爆証言後、各グループで分かち合いの時を持ち、その後平和公園へ移動しました。カトリック教会の皆さんと共に原爆供養塔の前で祈りのつ

どいを行ない、平和行進をしながらカトリック世界平和記念聖堂に向かいました。同聖堂での「合同平和祈願ミサ」では、カトリック那覇教区の

押川壽夫司教が、沖繩における戦争被害・米軍基地問題の現状をお話になり、私たちが求めるべき平和についての説教をされました。6日は朝8時から、広島復活教会で広島原爆逝去者記念礼拝(朝の礼拝と8時15分の黙祷)が行われました。また、10時30分からは広島原爆逝去者記念聖餐式が中村豊主教、武藤謙一九州教区主教、三鍋裕横浜教区主教の共同司式、小林尚明司祭の説教で行われ、広島平和礼拝2017を終えることができました。

多くの方々と共にキリストの平和を求め、祈ることができましたことを感謝致します。



(広島平和礼拝実行委員
執事 遠藤 洋介)